

# 2013年度 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2014年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## 2013年度 業績 (2013年4月~2014年3月)

(単位:億円)

	2012年度	2013年度	対前年度
売上高	22,147 100.0%	24,400 100.0%	2,253 +10.2%
営業利益	1,141 5.2%	1,408 5.8%	267 +23.4%
税金等調整前 当期純利益	1,192 5.4%	1,572 6.4%	380 +31.9%
当社株主帰属 当期純利益	543 2.5%	810 3.3%	267 +49.3%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	112.65円	168.07円	55.42円
為替 :米ドル :ユーロ	83円 107円	100円 134円	17円安 27円安

\*営業利益 増減要因(対前年度) 為替: +330億円、原材料: -3億円

2

日頃お世話になっております。助野でございます。  
2013年度業績について、詳細をご説明させていただきます。

まず2013年度の世界経済を振り返りますと、全体として緩やかな回復基調を維持しました。

米国では、個人消費の回復傾向が持続するとともに、企業部門も内需の底堅さを受け回復基調が強まり、緩やかな景気拡大が続いています。

欧州では、失業率の高止まりが続いていますが、

個人消費を中心に景気は緩やかに持ち直しています。

アジアでは、中国経済の成長のペースは緩やかなままでしたが、ASEAN  
諸国は総じて堅調な成長を維持しています。

日本においては、大型補正予算の編成や日銀の大胆な金融緩和を受けた円安・株高の進行などにより、景気が拡大しています。

このような環境において、当社グループは、  
メディカルシステムやドキュメントなどが好調だったことや、  
為替円安の効果で、  
連結売上高は前年比10.2%増の2兆4,400億円となりました。  
営業利益は、売上高の増加に加え、為替の円安効果などにより、  
前年比23.4%増の1,408億円の増収増益となりました。

これに為替差益などが加わり、  
税金等調整前当期純利益は、前年比31.9%増の1,572億円、  
当社株主帰属当期純利益は、前年比49.3%増の810億円で、  
1株当たりの当社株主帰属当期純利益は、168円07銭となりました。

## 2013年度 セグメント別:連結売上高/営業利益

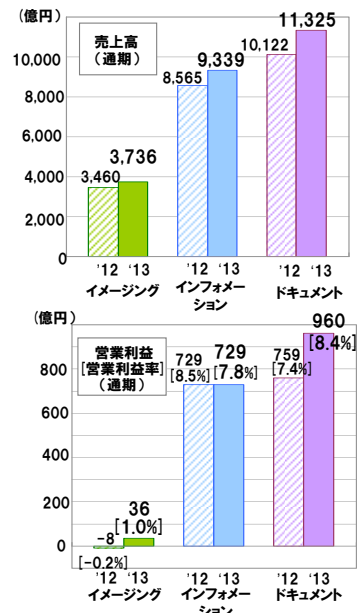
(単位:億円)

売上高	通期		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	3,460	3,736	276 (+8.0%)
インフォメーション	8,565	9,339	774 (+9.0%)
ドキュメント	10,122	11,325	1,203 (+11.9%)
合計	22,147	24,400	2,253 (+10.2%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	通期		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	-8	36	44 (黒字化)
インフォメーション	729	729	0 (+0.0%)
ドキュメント	759	960	201 (+26.5%)
全社/連結調整	-339	-317	22
合計	1,141	1,408	267 (+23.4%)



\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。 3

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比8.0%増の3,736億円、営業利益は36億円となりました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比9.0%増の9,339億円、営業利益は前年比横ばいの729億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比11.9%増の1兆1,325億円、営業利益は前年比26.5%増の960億円となりました。

## 2013年度 セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	前年比	営業利益	前年比
3,736	276 (+8.0%)	36	44 (黒字化)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラおよびインスタントフィルムの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加。
- ・ 電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少に伴い、徹底的な固定費削減策を断行し、Xシリーズをはじめとする高級機種に注力する体制づくりを推進。Xシリーズはプレミアムミラーレスカメラの販売が好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズなどの販売も好調に推移し、売上が大幅に増加。

フォトイメージングが好調に推移したことや、  
為替円安、固定費削減効果などにより  
増収・黒字化を達成

\* 2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

4

まずイメージングソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ「チェキ」およびインスタントフィルムの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスが拡大し、売上が増加しました。

電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少に伴い、徹底的な固定費削減策を断行し、Xシリーズをはじめとする高級機種に注力する体制づくりを推進しました。Xシリーズは「FUJIFILM X-E2」や「FUJIFILM X-T1」などのプレミアムミラーレスカメラの販売が好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上が大幅に増加しました。

この結果、光学・電子映像事業合計で、売上が増加しました。

イメージングソリューション部門は、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受けたものの、インスタントカメラなどのフォトイメージングが好調だったことや、為替円安、固定費削減効果などにより増収・黒字化を達成しました。

## 2013年度 セグメント別 概況

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	前年比	営業利益	前年比
9,339	774 (+9.0%)	729	0 (+0.0%)

- ・メディカルシステムでは、成長領域である医用画像情報システムや内視鏡など、事業全体で販売が好調に推移し売上が増加。また医薬品も富士化学や富士フィルムファーマなどの販売が伸び売上が増加し、ヘルスケア全体でも売上が大幅に増加。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、デスクトップモニターの需要低迷の影響により、WVフィルムの販売が減少したものの、テレビ画面の大型化などにより、VA用フィルム・IPS用フィルムの販売が堅調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、CTPプレートのシェア拡大や為替の円安効果により売上が大幅に増加。
- ・産業機材では工業用X線フィルムなどの販売が好調に推移したことに加え、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの新規高機能材料の寄与により、売上が大幅に増加。電子材料、記録メディアも売上が増加。

ヘルスケア等が好調だったことや為替円安の効果もあり  
増収だったものの、  
特許売却などがあった前年比では営業利益は横ばい

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアでは、  
メディカルシステムの成長領域である医用画像情報システムや内視鏡をはじめとして、事業全体で販売が好調に推移しました。  
また医薬品も、富士化学の「ゾシン」の販売が引き続き好調だったことや、富士フィルムファーマにおいて、バイエル薬品の先発薬の販売が堅調に推移したことなどにより、売上が増加し、ヘルスケア全体でも、売上が大幅に増加しました。  
医薬品については新薬開発を加速させています。

フラットパネルディスプレイ材料は、デスクトップモニターの需要低迷の影響により、WVフィルムの販売が減少したものの、テレビ画面の大型化などにより、VA用フィルム及びIPS用フィルムの販売が堅調に推移しました。

グラフィックシステムでは、CTPプレートのシェア拡大や、為替の円安効果により、売上が大幅に増加しました。

産業機材では、工業用X線フィルムの販売が好調に推移したことに加え、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの新規高機能材料の寄与により、売上が増加しました。  
また電子材料、記録メディアの売上也増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、  
ヘルスケア等が好調だったことや、為替円安の効果もあり、増収となりましたが、  
特許売却などがあった前年との比較では、営業利益は横ばいとなりました。

## 2013年度 セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	前年比	営業利益	前年比
11,325	1,203 (+11.9%)	960	201(+26.5%)

- ・国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加。
- ・オフィスプロダクトは、全ての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機も好調に推移。
- ・オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出でカラー機の販売台数が増加。
- ・プロダクションサービスは、国内、アジア・オセアニア地域および米国ゼロックス社向け輸出のいずれもカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加。
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域において売上が増加。
- ・売上の増加とともに、製造原価改善及び経費効率化も寄与し増益。

**全ての地域において販売が堅調に推移し  
増収増益**

ドキュメント ソリューション部門については、国内、アジア・オセアニア地域、および米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいても売上が増加しました。

オフィスプロダクトは、すべての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機の販売台数も増加しました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でカラー機が好調に推移し、販売台数が増加しました。

プロダクションサービスは、国内、アジア・オセアニア地域、および米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいてもカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加しました。

グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域において売上が増加しました。

売上が増加したことに加え、製造原価改善および経費効率化も寄与し、ドキュメント ソリューション部門は増収増益となりました。

## 連結貸借対照表

(単位:億円)

	11年度 末	12年度 末	13年度 末	対12年度 末		11年度 末	12年度 末	13年度 末	対12年度 末
現金 及び現金同等物	2,351	4,454	6,046	1,592	長短社債 及び借入金	1,989	3,583	3,597	14
受取債権	5,565	5,889	6,368	479	支払債務	2,584	2,510	2,659	149
棚卸資産	3,780	3,999	3,637	-362	その他流動 固定負債	4,259	4,255	4,032	-223
有価証券 その他流動資産	1,524	1,271	1,566	295	負債計	8,832	10,348	10,288	-60
流動資産計	13,220	15,613	17,617	2,004	株主資本計	17,218	18,689	20,206	1,517
有形固定資産	5,539	5,461	5,303	-158	非支配持分	1,347	1,559	1,776	217
営業権	3,935	4,122	4,231	109	純資産計	18,565	20,248	21,982	1,734
投資有価証券 その他資産	4,703	5,400	5,119	-281	負債・純資産 合計	27,397	30,596	32,270	1,674
固定資産計	14,177	14,983	14,653	-330					
資産合計	27,397	30,596	32,270	1,674					

(単位:円)

期末日 為替レート	11年度 末	12年度 末	13年度 末	対12年度 末
米ドル	82	94	103	9円安
ユーロ	110	121	142	21円安

7

次に、バランスシートについてご説明します。

2014年3月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響により、前期末と比較して1,674億円増の3兆2,270億円となりました。

負債は、退職給付引当金の減少などにより、60億円減少の1兆288億円となりました。

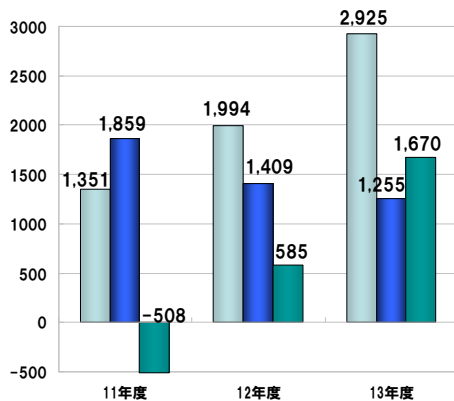
株主資本は、1,517億円増加し2兆206億円となりました。

この結果、流動比率は前期末に比べ9.6ポイント増の295.4%、負債比率は4.5ポイント減の50.9%、株主資本比率は1.5ポイント増の62.6%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

## キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

(単位:億円)



(単位:億円)

	11年度	12年度	13年度
当期純利益	570	712	1,021
減価償却費	1,478	1,415	1,414
受取債権の増(-)減(+)	-503	90	-243
棚卸資産の増(-)減(+)	-245	118	580
営業債務の増(+)-減(-)	-54	-241	72
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-223	-319	-29
その他	328	219	110
<b>営業活動によるCF</b>	<b>1,351</b>	<b>1,994</b>	<b>2,925</b>
設備投資	-1,008	-899	-703
ソフトウェアの購入	-210	-202	-246
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	254	133	-56
その他	-895	-441	-250
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-1,859</b>	<b>-1,409</b>	<b>-1,255</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>-508</b>	<b>585</b>	<b>1,670</b>
<b>営業活動によるCF+設備投資</b>	<b>343</b>	<b>1,095</b>	<b>2,222</b>

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益の増加や棚卸資産の減少などにより、2,925億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入などにより、1,255億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、1,670億円のプラスとなりました。

以上、2013年度決算について、ご説明いたしました。

引き続きまして、2014年度の通期見通しについてご説明いたします。



2013年度 決算説明会

## 参考資料

## 4Q/通期 業績

(単位:億円)

	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
売上高	6,035 100.0%	6,656 100.0%	621 +10.3%	22,147 100.0%	24,400 100.0%	2,253 +10.2%
営業利益	487 8.1%	412 6.2%	-75 -15.5%	1,141 5.2%	1,408 5.8%	267 +23.4%
税金等調整前 当期純利益	564 9.3%	430 6.5%	-134 -23.8%	1,192 5.4%	1,572 6.4%	380 +31.9%
当社株主帰属 当期純利益	255 4.2%	185 2.8%	-70 -27.2%	543 2.5%	810 3.3%	267 +49.3%
為替 :米ドル	93円	103円	10円安	83円	100円	17円安
:ユーロ	122円	141円	19円安	107円	134円	27円安

\*営業利益 増減要因(通期 対前年度) 為替: +330億円、原材料: -3億円

10

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 4Q/通期 業績

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	866	955	89 (+10.4%)	3,460	3,736	276 (+8.0%)
インフォメーション	2,399	2,628	229 (+9.5%)	8,565	9,339	774 (+9.0%)
ドキュメント	2,770	3,073	303 (+10.9%)	10,122	11,325	1,203 (+11.9%)
合計	6,035	6,656	621 (+10.3%)	22,147	24,400	2,253 (+10.2%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	31 [3.6%]	51 [5.2%]	20 (+63.1%)	-8 [-0.2%]	36 [1.0%]	44 (黒字化)
インフォメーション	305 [12.7%]	194 [7.4%]	-111 (-36.3%)	729 [8.5%]	729 [7.8%]	0 (+0.0%)
ドキュメント	235 [8.4%]	251 [8.1%]	16 (+6.9%)	759 [7.4%]	960 [8.4%]	201 (+26.5%)
全社/連結調整	-84	-84	0	-339	-317	22
合計	487 [8.1%]	412 [6.2%]	-75 (-15.5%)	1,141 [5.2%]	1,408 [5.8%]	267 (+23.4%)

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

11

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 4Q（3ヶ月）セグメント別 ハイライト

### ■ イメージング ソリューション

- スマートフォンで撮影した画像をプリントできる「instax SHARE SP-1」を2014年2月に発売し、インスタント写真システムのラインアップを拡充。
- プレミアムミラーレスカメラ「FUJIFILM X-T1」を2014年2月に発売し、販売が好調に推移。
- スマートフォン用カメラモジュールの販売は引き続き好調。

### ■ インフォメーション ソリューション

- 4Qが最大の商戦期である医療システムは販売が好調に推移。医薬品は感染症の流行が前年同期と比較して弱かったものの、バイオ医薬品受託製造が順調に推移し増収を確保。
- 4Qの需要が元々弱いフラットパネルディスプレイ材料は、想定通りに着地。
- グラフィックシステムはCTPプレートやデジタルプリンティングの売上が好調に推移。

### ■ ドキュメント ソリューション

- 国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出のいずれも増収。
- 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、製造原価改善および経費効率化が寄与したことにより、営業利益も対前年で増加。

<当スライドは配付資料です>

## 4Q/通期 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
フォトイメージング	532	523	-9 (-1.7%)	2,028	2,157	129 (+6.4%)
電子映像	191	231	40 (+20.9%)	920	861	-59 (-6.4%)
光学デバイス	143	201	58 (+41.1%)	512	718	206 (+40.3%)
光学・電子映像	334	432	98 (+29.6%)	1,432	1,579	147 (+10.3%)
合計	866	955	89 (+10.4%)	3,460	3,736	276 (+8.0%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	31 [3.6%]	51 [5.2%]	20 (+63.1%)	-8 [-0.2%]	36 [1.0%]	44 (黒字化)

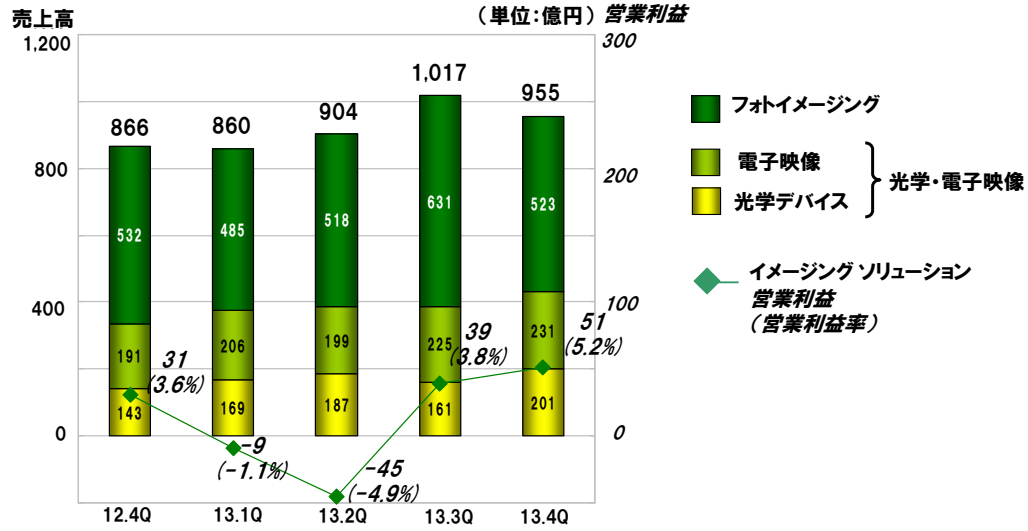
\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

13

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージング ソリューション



\*セグメント間取引消去後

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

## 4Q/通期 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
ヘルスケア	1,077	1,222	145 (+13.4%)	3,373	3,820	447 (+13.2%)
グラフィックシステム	645	757	112 (+17.2%)	2,417	2,800	383 (+15.8%)
フラットパネル ディスプレイ材料	345	292	-53 (-15.4%)	1,535	1,382	-153 (-10.0%)
記録メディア	130	134	4 (+3.3%)	425	465	40 (+9.4%)
産業機材/電子材料他	202	223	21 (+10.5%)	815	872	57 (+7.1%)
合計	2,399	2,628	229 (+9.5%)	8,565	9,339	774 (+9.0%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
インフォメーション	305 [12.7%]	194 [7.4%]	-111 (-36.3%)	729 [8.5%]	729 [7.8%]	0 (+0.0%)

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。  
\*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組織換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

15

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

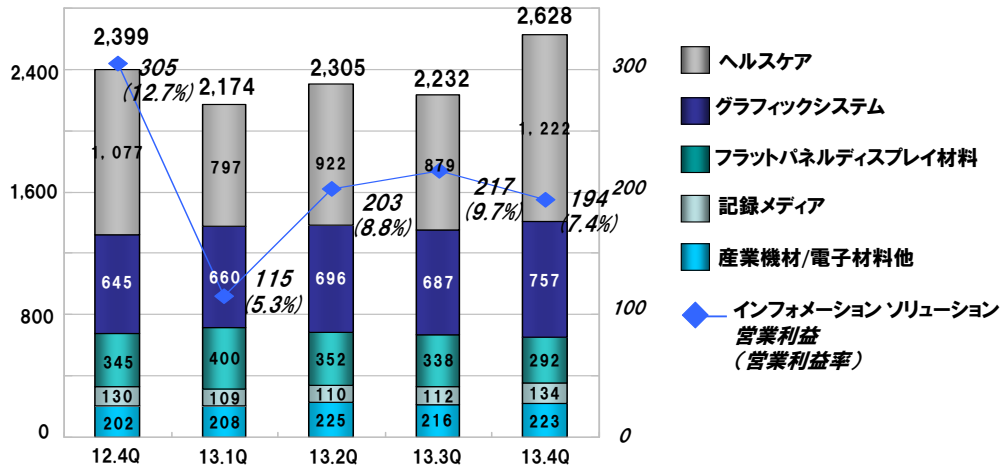
## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



\*セグメント間取引消去後

\*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>



## 4Q/通期 業績

## ■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,236	1,313	77 (+6.2%)	4,890	5,149	259 (+5.3%)
オフィスプリンター	429	506	77 (+17.8%)	1,585	1,839	254 (+16.0%)
プロダクションサービス	428	427	-1 (-0.1%)	1,484	1,555	71 (+4.8%)
グローバルサービス	396	446	50 (+12.6%)	1,223	1,541	318 (+26.0%)
その他	281	381	100 (+35.7%)	940	1,241	301 (+32.1%)
合計	2,770	3,073	303 (+10.9%)	10,122	11,325	1,203 (+11.9%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

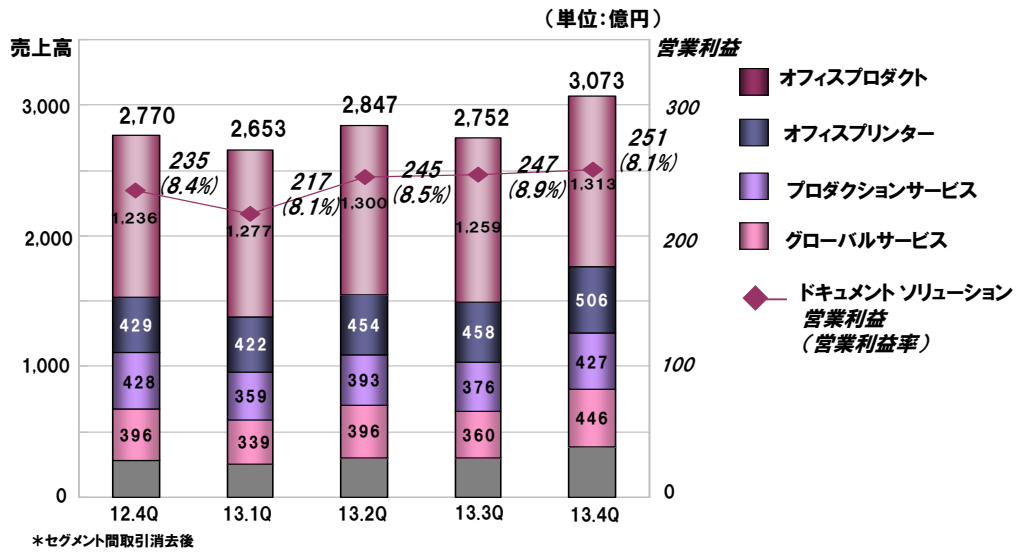
営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
ドキュメント	235 [8.4%]	251 [8.1%]	16 (+6.9%)	759 [7.4%]	960 [8.4%]	201 (+26.5%)

17

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメントソリューション



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2012年度		2013年度		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	45.3%	10,024	42.5%	10,369	345 (+3.4%)
米州	17.7%	3,933	17.9%	4,367	434 (+11.0%)
欧州	11.3%	2,504	12.0%	2,928	424 (+16.9%)
内、中国	9.2%	2,038	10.6%	2,572	534 (+26.2%)
アジア他	25.7%	5,686	27.6%	6,736	1,050 (+18.5%)
海外	54.7%	12,123	57.5%	14,031	1,908 (+15.7%)
合計	100.0%	22,147	100.0%	24,400	2,253 (+10.2%)

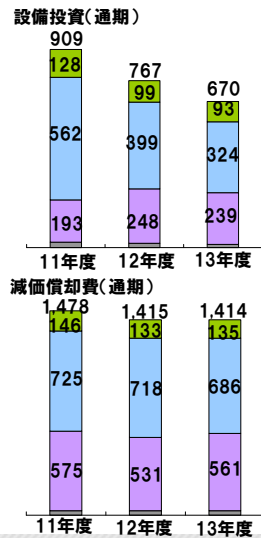
19

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



年度	4Q			過期			
	2011	2012	2013	2011	2012	2013	2014(予想)
イメージング	42	28	18	128	99	93	
インフォメーション	147	91	106	562	399	324	
ドキュメント	82	110	49	193	248	239	
コーポレート	6	7	3	26	21	14	
設備投資 ※	277	236	176	909	767	670	750
イメージング	47	45	41	146	133	135	
インフォメーション	201	200	178	725	718	686	
ドキュメント	142	137	144	575	531	561	
コーポレート	9	7	8	32	33	32	
減価償却費	399	389	371	1,478	1,415	1,414	1,200
有形固定資産の減価償却費 ※	271	269	254	966	934	907	750

※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

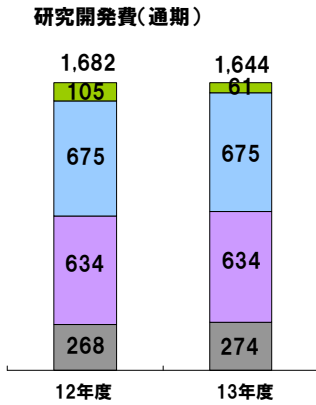
\* 2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



年度	4Q		通期	
	2012	2013	2012	2013
イメージング	22	2	105	61
インフォメーション	192	178	675	675
ドキュメント	173	159	634	634
コーポレート	63	77	268	274
<b>研究開発費</b>	<b>450</b>	<b>416</b>	<b>1,682</b>	<b>1,644</b>
<売上高比>	7.5%	6.3%	7.6%	6.7%
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,336</b>	<b>1,560</b>	<b>5,682</b>	<b>6,159</b>
<売上高比>	22.1%	23.4%	25.6%	25.2%

\*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位:円)

	2012年度					2013年度					2014年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期(予想)
米ドル	80	79	81	93	83	99	99	101	103	100	100
ユーロ	103	98	105	122	107	129	131	137	141	134	135

\*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

### 原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2012年度					2013年度					2014年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期(予想)
銀	79	71	83	91	81	78	68	68	67	71	80

### 人員

(単位:人)

	2013.3末	2013.6末	2013.9末	2013.12末	2014.3末
連結	80,322	79,965	79,837	80,113	78,595

<当スライドは配付資料です>

## パイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗ウイルス剤	経口	米国	PⅢ実施中	
T-3811	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	PⅠ実施中	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国	PⅡ実施中	
			日本	PⅠ終了	
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	PⅠ実施中	
バイオ ITK-1	抗がん剤(前立腺がん)	注射	日本	PⅢ実施中	
FF-10501	抗がん剤(血液がん)	経口	日本	PⅠ実施中	
			米国	PⅠ準備中	
バイオ FF-21101	抗がん剤(難治性固形がん)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
FF-10502	抗がん剤(難治性固形がん)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	放射性医薬品(前立腺がん診断用)		日本	PⅠ実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、計画通り2013年4月に欧州でPⅠを開始。

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### **富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### **IRイベント資料**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2013年 11月 メディカルシステム事業説明会
- 2013年 11月 医薬品事業説明会

### **富士フィルムってどんな会社？**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

### **富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2013**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual\\_reports/2013/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2013/index.html)

<当スライドは配付資料です>



**2013年度 決算説明会**

**2014年度 業績予想**

**2014年4月30日**

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## 2014年度 連結業績予想 (2014年4月30日時点)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度 (予想)	対前年度
売上高	24,400 100.0%	24,600 100.0%	200 +0.8%
営業利益	1,408 5.8%	1,600 6.5%	192 +13.6%
税金等調整前 当期純利益	1,572 6.4%	1,600 6.5%	28 +1.8%
当社株主帰属 当期純利益	810 3.3%	850 3.5%	40 +4.9%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	168.07円	176.36円	8.29円
為替 :米ドル	100円	100円	-
:ユーロ	134円	135円	1円安

\*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円 原材料価格(銀): 80,000円/kg

26

売上高は、当社の成長の柱であるヘルスケアやドキュメントなどで増収を見込んでいます。一方、スマートフォンの影響を受けているデジタルカメラは、Xシリーズなどのハイエンドモデルに絞り込むことで、販売台数が減り、減収となります。

これにより、トータルの売上高は、対前年200億円増の2兆4,600億円を予想しております。

営業利益については、ヘルスケアやドキュメント、およびデジタルカメラなどの事業の改善に加え、減価償却方法の変更に伴う影響により、300億円程度の増益を見込んでおりますが、今年度も新薬の研究開発を戦略的に前倒して実施することや、原材料費などのコストアップ要因を見込んでおり、前年比13.6%増の1,600億円を予想しております。

税金等調整前当期純利益は、1.8%増の1,600億円、  
当社株主帰属当期純利益は、4.9%増の850億円を予想しております。

2014年度の為替レートはドル円を100円、ユーロ円を135円で想定しております。

配当金については、2013年度は創立80周年を記念して10円の記念配当を予定しており、普通配当40円と併せて年間50円を予定しています。

2014年度は只今ご説明をいたしました売上高・利益計画を必達すべく進めていきますが、欧州経済状況など不透明な外部要因があるため、配当額は現時点では未定とさせていただきます。

## 2014年度 業績予想のポイント (2014年4月30日時点)

### ■ヘルスケア領域の着実な成長

#### <メディカルシステム>

#### ・IT・内視鏡・超音波の売上2ケタ%成長

##### 【IT】

PACSで国内トップシェア、WWシェア2位(推定)の強いマーケットポジションを活かし、病院内および地域内医療をつなぐ統合システムの拡大

##### 【内視鏡】

当社の強みである経鼻内視鏡・ダブルバルーン内視鏡の新製品、およびレーザー内視鏡の拡販

新興国での拡販強化

##### 【超音波】

富士フィルムとソノサイトの初の共同開発による画期的な「携帯型」超音波の新製品、および市場開拓を狙った新発想の「据置型」新製品を、双方の販売チャネルの活用により拡販

#### ・機器のさらなるコストダウンによる利益率改善

27

ここからは、業績予想のポイントをご説明します。  
まず、ヘルスケア領域で着実に成長いたします。

メディカルシステムは、昨年に引き続き、IT・内視鏡・超音波での売上2ケタ%の成長を目指します。  
まずITでは、PACSで国内トップシェア、WWでも推定で2位である強いマーケットポジションを活かし、病院内および地域内医療をつなぐ統合システムの拡大を目指します。

内視鏡は、当社が強い領域の経鼻内視鏡・ダブルバルーン内視鏡で昨年発売した新製品や、レーザー内視鏡を拡販します。特に新興国での拡販にも注力します。

超音波では、買収したソノサイトと富士フィルムとの共同開発による、初めての画期的な携帯型超音波の新製品を4月に発表しました。携帯性と優れた操作性を持ちながら、画質を大幅に向上させた製品で、今までとは異なるシーンでの活用も増えるのではと期待しております。また据置型の新製品は、市場開拓を狙って新規のドクターでも簡単に使えるような工夫を凝らしており、ソノサイトの強みである新規顧客開拓力を存分に発揮して拡販します。  
販売活動は、北米に強いソノサイト、世界各国に現法を持つ富士フィルムの双方の販売チャネルを最大限に活用して展開します。

そして利益率の改善につながっている機器のさらなるコストダウンにも、継続して取り組んでいきます。

## 2014年度 業績予想のポイント (2014年4月30日時点)

### ■ヘルスケア領域の着実な成長

#### <医薬品>

- 富山化学をはじめとした事業会社による既存ビジネスを中心に売上2ケタ%成長
- 新薬開発を進め、導出を含めた「新薬による収益貢献」の早期化
  - 新規抗がん剤候補(3薬剤)をMDアンダーソン がんセンターとの共同開発
  - アルツハイマー型認知症治療薬「T-817MA」の開発  
(Alzheimer's Disease Cooperative Study / iPS細胞研究所)
  - 富山化学の将来の柱となる感染症治療薬の開発
- バイオ医薬品受託製造で動物細胞培養の新規顧客を開拓
- Drug Delivery Systemや合成技術の導出/アライアンスを本格事業化

28

医薬品事業は、富山化学をはじめとした事業会社による既存ビジネスを中心に、売上で2ケタ%の成長を目指します。

また昨年に引き続き、導出を含めた新薬による収益貢献の早期化を狙い、新薬の研究開発を積極的に行ないます。

パイプラインとして具体的に進捗があるものとして、3つの新規抗がん剤候補をアメリカのMDアンダーソンがんセンターと共同開発することが決まっており、この第一四半期には順次フェーズ1の臨床試験に入る予定です。

アルツハイマー型治療薬「T-817MA」の開発も進展させます。アルツハイマー型認知症の研究機関で米国で最大のADCSとの協働での臨床試験を、この第一四半期に開始する予定です。経験豊富なADCSとともに取り組むことで、臨床開発の質とスピードを向上させ、開発を加速させていきます。

また「T-817MA」については、京都大学iPS細胞研究所と共同研究に取り組むことが決まり、薬効の解析および臨床試験の有効患者群を予測するバイオマーカーの探索・特定を行ないます。特定したバイオマーカーを用いて臨床試験を効率的に進め、開発の加速を狙います。

富山化学でも、将来の柱となる新規マクロライド系抗菌剤「ソリスロマイシン」の開発を進めます。

バイオ医薬品受託製造ビジネスでは、昨年新たに設備投資した動物細胞培養の新規顧客を開拓します。

またドラッグデリバリーシステムや合成技術の導出・アライアンスを本格的なビジネスにしていきます。

**2014年度 業績予想のポイント** (2014年4月30日時点)**■高機能材料(FPD材料、産業機材)の拡販**

- ・25 μm超薄手プレーンTAC・Z-TACや、出荷を開始した新開発の40 μmWVフィルムなど、中小型ディスプレイ向け製品の販売強化
- ・大型化により面積ベースでの拡大が見込まれるテレビ用途への拡販
- ・タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の拡販およびタッチパネル用新規部材の研究・開発
- ・大型設備投資一巡による償却費負担の減少
- ・中長期的な成長を見据えた、新規高機能材料の開発推進
- ・「Open Innovation Hub」を通じ、ビジネスパートナーと新たな価値を「共創」

29

続いて高機能材料についてです。

フラットパネルディスプレイ材料では、モニター需要が下げ止まりつつある事に加え、新興国向けタブレットPC/スマートフォンでWVフィルムの採用が拡大しております。昨年度も進めて参りましたが、需要拡大が期待される中小型ディスプレイ向けに開発した25ミクロンの超薄手プレーンTAC・Z-TACや、新開発の40ミクロンのWVフィルムなどの販売を更に強化します。また、大型化に伴い依然として緩やかな画面面積の成長が見込まれるテレビ向け用途でも、しっかりと売上を確保していきます。大型設備投資が一段落していることにより、償却費負担が前年比で数十億円レベルで減少する見込みです。

新規材料としては、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の拡販に継続して取り組むとともに、その他タッチパネル用新規部材の研究・開発を進めます。

また、中長期的に当社グループの強みを活かして成長し続けていくためには、お客様のニーズが絶えず変化し多様化する社会において、魅力的な製品やサービスをスピーディに提供することが必要不可欠だと考えております。今年の1月には「オープン・イノベーション・ハブ」をオープンしましたが、この場を通じて当社グループのコア技術をビジネスパートナーにご提示し、新しい価値を「共創」することを目指して、オープンな対話を始めています。当社の強みを活かした新規ビジネスの創出にも積極的に取り組んでまいります。

**2014年度 業績予想のポイント**（2014年4月30日時点）**■ドキュメントの営業利益率向上**

- ・グローバルサービス、プロダクションサービス及びソリューションサービスの更なる強化と事業拡大
- ・買収した豪州サービスプロバイダーとのシナジーによる、アジア・オセアニア地域でのサービス事業の拡大
- ・市場ニーズにマッチした製品ラインアップの強化による機器販売の更なる拡大
- ・一層のコスト低減・経費削減の推進による収益性改善

30

ドキュメントは、グローバルサービス、プロダクションサービス、またオフィス向けのソリューションサービスを強化し、事業を拡大します。

また2012年に買収しましたオーストラリアのサービスプロバイダーについてはPMIを進めており、アジア・オセアニア地域でのサービス事業の拡大を加速します。

製品においても、市場ニーズにマッチした製品ラインアップ強化による機器販売の拡大を図ります。

さらに、一層のコスト低減・経費削減を推進することにより、営業利益率を向上させ、早期の営業利益率10%の達成を目指します。

**2014年度 業績予想のポイント**（2014年4月30日時点）**■再編成した光学・電子映像事業の大幅な損益改善**

- ・昨年度に実施した「光学デバイス事業」「電子映像事業」の統合による新たな事業として再編成した体制による事業展開
- ・徹底的な固定費削減等の損益改善施策による黒字化
- ・Xシリーズなどのハイエンドモデルへ大幅にシフトした販売・生産体制によるビジネス展開
- ・テレビカメラ用レンズのさらなる拡販と、セキュリティ用レンズ・車載カメラ用レンズなど今後市場の伸びが期待される領域を強化

31

最後に「光学・電子映像事業」については、昨年度に新たな事業として再編成するために事業部を統合し、その新たな体制が順調に整いました。研究開発から生産、販売まで、光学デバイス・電子映像のシナジーを最大限に活かして事業を展開してまいります。

また昨年度は徹底的な固定費削減等の損益改善施策を断行し、今年度には黒字化できる体制を整えました。

デジタルカメラについては、Xシリーズなどのハイエンドモデルへ大幅にシフトした販売・生産体制によりビジネスを展開してまいります。

レンズビジネスについては、テレビカメラ用レンズのさらなる拡販と、セキュリティ用レンズや車載カメラ用レンズなど今後市場の伸びが期待される領域を強化していきます。

今後は新たに再編した体制で、レンズや画像に関する高い技術力を最大限発揮できるビジネス展開を狙ってまいります。

80th  
Anniversary

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2014年度の見通しについて、ご説明いたしました。  
ご静聴いただき、ありがとうございました。